

女性のつながりサポート事業【新潟県】

総事業費	7,954 千円
交付金額	5,965 千円

地域の実情と課題

- 女性の自殺者数はR元：120人、R2：141人、R3：149人、R4：133人、R5：108人と推移しており、R3から減少したものの未だ年間100人を超えている。
- フードバンクを利用するひとり親家庭（シングルザー）等は8,500世帯を超えている。
- 物価高騰等の影響を受け、望まない孤独・孤立で不安を抱える女性が社会とのつながりを回復できるよう、きめ細かな支援が必要。

事業の特徴

- （公財）新潟県女性財団を中心に、NPO等の相談支援者の対応スキル向上セミナーや、各種相談支援窓口の周知を実施するほか、困難を抱える女性への生理用品の提供等を通して、相談・支援に繋げていく。
- フードバンクの連携組織である連絡協議会を中心に、女性同士の支援（ピアサポート）の提供や、よりリスクの高い者には、訪問・同行支援（アウトリーチ）を行うなどの支援を実施する。
- 専任の相談員に加え、有資格者による専門相談を実施する。

事業の効果

- 様々な女性支援・相談窓口を周知することができた。
- 研修等を通じて、女性支援に係る各団体の人材育成に寄与した。
- 生理用品の配布は、生活に困難を抱える女性への一助になるとともに、相談のきっかけづくりや相談の継続に効果があった。
- ピアサポートによる女性同士の支援や居場所の確保につながった。

目的・目標

- 望まない孤独・孤立で不安を抱える女性が社会とのつながりを回復できるよう、県や市町村とNPO等の各組織間連携を図るとともに、NPO等の知見を活かしてきめ細かい支援を提供する。

目標・KPI	目標	実績
参加者数	400人 (アウトプット)	アウトリーチ支援 120人 ピアサポートイベント参加者数 2,469人

連携団体

- （公財）新潟県女性財団を中心に、市町村や学校、新潟県フードバンク連絡協議会など各種の相談・支援活動を展開するNPO等

今後の課題

- 行政機関とNPO等との更なる連携、協働関係づくり
- 支援や相談が必要な女性に届くような生理用品等の配布先の工夫
- 支援が必要な女性の更なる掘り起こしとプッシュ型の支援

事業の概要

ネットワーク形成・連携支援

□ 相談・支援窓口の人材育成セミナー

支援・相談体制の充実を図るため、NPO等の相談人材を育成するセミナーを開催。

○ テーマ

「様々な困難を抱える女性への支援について考える」

- ・1回目 開催日：令和7年9月4日（木）
参加者：30人（19団体）
内容：「支援活動から見えてくる現状と課題」
- ・2回目 開催日：令和7年9月26日（金）
参加者：29人（22団体）
内容：「ひとり親家庭における現状と課題」

□ 相談・支援窓口の周知

女性のための相談・支援窓口のWebサイト「こいがたRibbon net」の周知及び生理用品と併せてリーフレット・ポスターの作成・配布。

・「こいがたRibbon net」 24団体掲載

・生理用品の配布

配布数：220箱（3,960袋）

配布先：関係NPO、高校、大学、市町村等

・ポスター・リーフレットの作成・配布

配布数：ポスター 999枚、リーフレット 20,460枚

配布先：高校、大学、専門学校、公民館、市町村、ハローワーク、警察署、NPO等



アウトリーチ支援・ピアサポート支援

新潟県フードバンク連絡協議会と連携し、アウトリーチ支援、ピアサポート支援を実施。

- ・訪問・同行支援の実施
訪問人数：120人
- ・ピアサポートイベントや居場所づくりの実施
開催回数：20回、参加者数：2,469人

相談事業

新潟県男女平等推進相談室の特別相談として、弁護士による法律相談を実施。

実施回数：毎月2回、計24回